2024年度臨時
マンツーマンディレクター会議

JBA マンツーマン推進プロジェクト

2025/3/19

JBA
JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION

【修正の趣旨①】
整合性が取れていなかった箇所、意味合いが変更された部分に対応されていなかった箇所を修正。

【内容】
① 赤色旗対応処置後の試合再開方法について、整合性をとれていなかったところを整理。
→ 9-1 罰則
→ 12-3-3　第４クォーターおよびオーバータイムの処置

② 再開方法について、赤色旗が挙げられた場合を統一。
→ 11-1-4, 11-2-3, 11-3-3

③ 赤色旗の処置について、1回目と2回目以降の記載を区別。
→ 11-2,11-3

④ これまで黄色旗は「注意」、赤色旗は「警告」としていたが、現在は黄色旗は「警告」の意味に変更しているので修正。
→ 修正箇所多数

修正内容　1-① 赤色旗対応処置後の試合再開方法について

【内容】

→ 9-1 罰則

第 9 条　マンツーマンペナルティの罰則
9-1　罰則
9-1-1　相手チームに 1 本のフリースローが与えられた後、相手チームのフロントコートのスローインライン(U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上)からのスローインでゲームを再開する。
9-1-2　コーチに 2 回(U12 では 3 回)のマンツーマンペナルティが記録された場合、当該コーチは失格退場となる。
9-1-3　1 回目の赤色旗は警告でありマンツーマンペナルティは記録されないが、罰則として相手チームにボール保持が与えられる。ボールの保持が変わらなかった場合（アウトオブバウンズ、ディフェンス側のファウル、ディフェンス側のキックボール）は事象の起こった近い位置からのスローインとし、それ以外は相手チームのフロントコートのスローインライン(U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上)からのスローインでゲームを再開する。
9-1-4　ただし、アンスポーツマンライクファウル・ディスクォリファイファウルなど、フリースローの後にディフェンス側のボール保持から再開するケースはファウルの処置を優先する。

第９条　マンツーマンペナルティの罰則
9-1　罰則
9-1-1　1 回目の赤色旗は警告でありマンツーマンペナルティは記録されないが、罰則として相手チームにボール保持が与えられる。
9-1-2　2 回目以降の赤色旗は、当該チームのコーチにマンツーマンペナルティが記録される。罰則として相手チームに 1 本のフリースローが与えられた後、相手チームにボール保持が与えられる。
9-1-3　ただし、アンスポーツマンライクファウル・ディスクォリファイファウルなど、フリースローの後にディフェンス側のボール保持から再開するケースはファウルの処置を優先する。
9-1-4　コーチに 2 回(U12 では 3 回)のマンツーマンペナルティが記録された場合、当該コーチは失格退場となる。

→ 12-3-3　第４クォーターおよびオーバータイムの処置

12-3-3　処置の結果、勝敗が明らかになった場合は、そのまま速やかにゲームを終了する。
12-3-4　処置の結果、オーバータイムを行う場合は、処置を行った後、インターバルの計時を始め、次のクォーターはマンツーマンペナルティのスローインから開始するので、アローの向きは変えない。

12-3-2　処置の結果、勝敗が明らかになった場合は、そのまま速やかにゲームを終了する。
12-3-3　処置の結果、オーバータイムを行う場合は、処置を行った後、インターバルの計時を始め、次のクォーターは、マンツーマンペナルティの罰則として、U15 ではフロントコートのスローインライン、U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上からのスローインで開始するので、アローの向きは変えない。

修正前

修正後

修正内容　1-② 再開方法について、赤色旗が挙げられた場合を統一

【内容】
→ 11-1-4, 11-2-3, 11-3-3

11-2-3　説明の後、ボールの保持が変わらなかった場合（アウトオブバウンズ、ディフェンス側のファウル、ディフェンス側のキックボール）は事象の起こった近い位置からのスローインとし、それ以外は相手チームのフロントコートのスローインライン(U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上)からのスローインでゲームを再開する。

11-3-3　説明の後、マンツーマンペナルティのフリースロー1 本とスローインでゲームを再開する。

修正前

11-1-4　説明の後、処置を行い、ボールの保持が変わらなかった場合（アウトオブバウンズ、ディフェンス側のファウル、ディフェンス側のキックボール）はゲームが止められた時にボールがあった場所から最も近いアウトオブバウンズでスローインが与えられる。それ以外は相手チームのフロントコートのスローインライン(U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上)からのスローインでゲームを再開する。
【補足】他の処置や罰則とマンツーマンペナルティが重複した場合は 14 条に記載。

11-2-3　説明の後、ボールの保持が変わらなかった場合（アウトオブバウンズ、ディフェンス側のファウル、ディフェンス側のキックボール）はゲームが止められた時にボールがあった場所から最も近いアウトオブバウンズでスローインが与えられる。それ以外は相手チームのフロントコートのスローインライン(U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上)からのスローインでゲームを再開する。
【補足】他の処置や罰則とマンツーマンペナルティが重複した場合は 14 条に記載。

11-3-3　説明の後、ボールの保持が変わらなかった場合（アウトオブバウンズ、ディフェンス側のファウル、ディフェンス側のキックボール）はゲームが止められた時にボールがあった場所から最も近いアウトオブバウンズでスローインが与えられる。それ以外は相手チームのフロントコートのスローインライン(U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上)からのスローインでゲームを再開する。
【補足】他の処置や罰則とマンツーマンペナルティが重複した場合は 14 条に記載。

修正後

原則として
ボールの保持が変わらなかった場合：ゲームが止められた時にボールがあった場所から最も近いアウトオブバウンズでスローイン
それ以外の場合：U15では相手チームのフロントコートのスローインライン、U12ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上）からのスローイン

修正内容　1-③ 赤色旗の処置について、1回目と2回目以降の記載を区別

【内容】
→ 11-2,11-3

11-2　1回目の警告の場合の処置
11-2-1　違反内容の説明後、クルーチーフは当該チームのコーチに1回目の警告であることを明確に伝える。この間、アンパイアはコート内のプレーヤーを把握し、すぐにゲームが再開できるようにその場に待機させる。
11-2-2　当該チームのコーチは、プレーヤーに説明が必要な場合、スコアラーズテーブルの前に5人のプレーヤーを集め、簡潔に説明することができる。
11-2-3　説明の後、ボールの保持が変わらなかった場合（アウトオブバウンズ、ディフェンス側のファウル、ディフェンス側のキックボール）は事象の起こった近い位置からのスローインとし、それ以外は相手チームのフロントコートのスローインライン(U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上)からのスローインでゲームを再開する。

11-3　2回目以降の警告の場合の処置
11-3-1　違反内容の説明後、クルーチーフは当該チームのコーチにマンツーマンペナルティを宣する。この間、アンパイアはコート内のプレーヤーを把握し、すぐにゲームが再開できるようにその場に待機させる。
11-3-2　当該チームのコーチは、プレーヤーに説明が必要な場合、スコアラーズテーブルの前に5人のプレーヤーを集め、簡潔に説明することができる。
11-3-3　説明の後、マンツーマンペナルティのフリースロー1本とスローインでゲームを再開する。

修正前

11-2　1回目の赤色旗の場合の処置
11-2-1　違反内容の説明後、クルーチーフは当該チームのコーチに 1 回目の赤色旗であることを明確に伝える。この間、アンパイアはコート内のプレーヤーを把握し、すぐにゲームが再開できるようにその場に待機させる。
11-2-2　当該チームのコーチは、プレーヤーに説明が必要な場合、スコアラーズテーブルの前に 5 人のプレーヤーを集め、簡潔に説明することができる。
11-2-3　説明の後、ボールの保持が変わらなかった場合（アウトオブバウンズ、ディフェンス側のファウル、ディフェンス側のキックボール）はゲームが止められた時にボールがあった場所から最も近いアウトオブバウンズでスローインが与えられる。それ以外は相手チームのフロントコートのスローインライン(U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上)からのスローインでゲームを再開する。
【補足】他の処置や罰則とマンツーマンペナルティが重複した場合は 14 条に記載。

11-3　2 回目以降の赤色旗の場合の処置
11-3-1　違反内容の説明後、クルーチーフは当該チームのコーチにマンツーマンペナルティを宣する。この間、アンパイアはコート内のプレーヤーを把握し、すぐにゲームが再開できるようにその場に待機させる。
11-3-2　当該チームのコーチは、プレーヤーに説明が必要な場合、スコアラーズテーブルの前に 5 人のプレーヤーを集め、簡潔に説明することができる。
11-3-3　説明の後、ボールの保持が変わらなかった場合（アウトオブバウンズ、ディフェンス側のファウル、ディフェンス側のキックボール）はゲームが止められた時にボールがあった場所から最も近いアウトオブバウンズでスローインが与えられる。それ以外は相手チームのフロントコートのスローインライン(U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上)からのスローインでゲームを再開する。
【補足】他の処置や罰則とマンツーマンペナルティが重複した場合は 14 条に記載。

修正後

修正内容　1-④ 黄色旗は「警告」の意味に変更しているので修正

【内容】
→ 修正箇所多数

【修正の趣旨②】
1）明確にした方がわかりやすくなる点、再開時のショットクロックの設定を修正。
　　理由は、TOやレフリーにとってもわかりやすくなるようにした方がよいため。
2）競技規則改定による44条引用の修正（誤りの訂正）

【内容】
①スローインの位置を明確にする（11-3-4,11-4-4,11-4-5）

②クォーター開始時のスローインの位置を明確にする（12-2-2,12-2-4,12-3-3）

③赤色旗処置後の再開時におけるショットクロックを通常のファウルと同じ対応へ（16-1-4）

④重大なファウルが起こった時の処置の順序について（14-1-2）

⑤競技規則44条の改訂による修正（ケース11）

修正内容　2-①スローインの位置を明確にする

【内容】
（11-3-4,11-4-4,11-4-5）

	修正前		修正後
11-3-4	ゲームクロックがフリースローを伴うファウルで止まった場合、当該ファウルの罰則のフリースローを行った後、マンツーマンペナルティの罰則のフリースローとスローインでゲームを再開する。	11-3-4	ゲームクロックがフリースローを伴うファウルで止まった場合、当該ファウルの罰則のフリースローを行った後、相手チームのフロントコートのスローインライン（U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上）からのスローインにより、速やかにゲームを再開させる。
11-4-4	説明の後、マンツーマンペナルティのフリースローとスローインでゲームを再開する。	11-4-4	説明の後、ボールの保持が変わらなかった場合（アウトオブバウンズ、ディフェンス側のファウル、ディフェンス側のキックボール）はゲームが止められた時にボールがあった場所から最も近いアウトオブバウンズでスローインが与えられる。それ以外は相手チームのフロントコートのスローインライン(U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上)からのスローインでゲームを再開する。
11-4-5	ゲームクロックがフリースローを伴うファウルで止まった場合、当該ファウルの罰則のフリースローを行った後、マンツーマンペナルティの罰則のフリースローとスローインでゲームを再開する。	11-4-5	ゲームクロックがフリースローを伴うファウルで止まった場合、当該ファウルの罰則のフリースローを行った後、相手チームのフロントコートのスローインライン（U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上）からのスローインにより、速やかにゲームを再開させる。

修正内容　2-②クォーター開始時のスローインの位置を明確にする

【内容】
（12-2-2,12-2-4,12-3-3）

12-2-2	次のクォーターは，マンツーマンペナルティのスローインから開始するので、アローの向きは変えない。	12-2-2	次のクォーターは、マンツーマンペナルティの罰則として、U15 ではフロントコートのスローインライン、U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上からのスローインで開始するので、アローの向きは変えない。
12-2-4	次のクォーターはマンツーマンペナルティのスローインから開始するので、アローの向きは変えない。	12-2-4	次のクォーターは、マンツーマンペナルティの罰則として、U15 ではフロントコートのスローインライン、U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上からのスローインで開始するので、アローの向きは変えない。
12-3-4	処置の結果、オーバータイムを行う場合は、処置を行った後、インターバルの計時を始め、次のクォーターはマンツーマンペナルティのスローインから開始するので、アローの向きは変えない。	12-3-3	処置の結果、オーバータイムを行う場合は、処置を行った後、インターバルの計時を始め、次のクォーターは、マンツーマンペナルティの罰則として、U15 ではフロントコートのスローインライン、U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上からのスローインで開始するので、アローの向きは変えない。

修正前　　修正後

修正内容　2-③赤色旗処置後の再開時におけるショットクロックを通常のファウルと同じ対応へ

【内容】（16-1-4）

修正前

16-1-4　ショットクロックは、1 回目の警告の場合、ボールの保持が変わらずアウトオブバウンズでゲームが止まった場合は，警告の後、U12U15 ともにショットクロックは継続とする。ボールの保持が変わらずそれ以外の場合（ディフェンスファウル、ディフェンス側のキックボール）は、U15 ではショットクロックが 15 秒以上残っている場合は 24 秒へリセット、14 秒以下の場合は 14 秒へリセットする。U12 では 24 秒へリセットする。これ以外の場合は U15 では 14 秒、U12 では 24 秒にリセットする。

マンツーマンディフェンスの基準規則　U15版　（２０２２年度改訂・２０２３年度施行）

赤旗が上がった際の対応

状況		赤旗1回目 TO席の前でコーチに説明	赤旗2回目・３回目 TO席の前でコーチに説明 チームBのHCにマンツーマンペナルティ	再開時の２４秒計 左：残り１５秒以上 右：残り１４秒以下	
ボールのコントロールが変わらない	アウトオブバウンズ	Aチームのスローイン （事象の起こった近い位置から）	Aチームの MPフリースロー１本 Aチームのスローイン （事象の起こった近い位置から）	継続	
	Bチームのファウル		Aチームの MPフリースロー１本 Aチームのスローイン （事象の起こった近い位置から）	２４秒	１４秒
	Bチームのキックボール		Aチームの MPフリースロー１本 Aチームのスローイン （事象の起こった近い位置から）		
ボールのコントロールが変わる	Bチームのスティール（ケース１，３）	Aチームのスローイン （相手チームのフロントコートのスローインラインからスローイン）	Aチームの MPフリースロー１本 Aチームのスローイン （相手チームのフロントコートのスローインラインからのスローイン）	１４秒	
	Bチームのディフェンスリバウンド（ケース１）				
	Aチームが得点した場合（ケース５）				
	Aチームの バイオレーション				
	Aチームのファウル（ケース３，６）				
その他	ジャンプボールシチュエーション（ケース４）※１				
	Bチームのショット動作中のファウル（ケース２）	Aチームのフリースロー（リバウンダーなし） Aチームのスローイン	Aチームのフリースロー（リバウンダーなし） Aチームの MPフリースロー１本 Aチームのスローイン		
	Aチームのショット～リバウンド時Aチームのファウル（チームAのファウル５回目以上の場合）	Bチームのフリースロー（リバウンダーなし） Aチームのスローイン	Bチームのフリースロー（リバウンダーなし） Aチームの MPフリースロー１本 Aチームのスローイン		
	アンスポーツマンライクファウル（UF） ディスクォリファイファウル（DQ）	DQ/UFのファウルの処置を優先し、ルールに沿ったスローインで再開※２	Aチームの MPフリースロー１本 DQ/UFのファウルの処置を優先し、ルールに沿ったスローインで再開		

修正後

16-1-4　ショットクロックは、1 回目の赤色旗の場合、ボールの保持が変わらずアウトオブバウンズでゲームが止まった場合は、警告の後、U12U15 ともにショットクロックは継続とする。ボールの保持が変わらずそれ以外の場合（ディフェンスファウル、ディフェンス側のキックボール）は、U15 ではスローインがバックコートからの場合、ショットクロックは 24 秒へリセット、スローインがフロントコートでショットクロックが 14 秒以下の場合は 14 秒へリセットする。スローインがフロントコートでショットクロックが 14 秒以上の場合は継続とする。U12 ではスローインの場所を問わず、24 秒へリセットする。これ以外の場合は U15 では 14 秒、U12 では 24 秒にリセットする。

マンツーマンディフェンスの基準規則　赤色旗が上がった際の対応　U15版　（2025年度施行）

状況		赤色旗1回目 TO席の前でコーチに説明	赤色旗2回目以降 TO席の前でコーチに説明 チームBのHCにマンツーマンペナルティ	再開時の24秒計 左：バックコート 右：フロントコート	
ボールのコントロールが変わらない	アウトオブバウンズ	Aチームのスローイン （ゲームが止められた時にボールがあった場所から最も近いアウトオブバウンズからスローイン）	Aチームの MPフリースロー１本 ＋Aチームのスローイン （ゲームが止められた時にボールがあった場所から最も近いアウトオブバウンズからスローイン）	継続	継続
	Bチームのファウル			24秒	14秒以下：14秒 14秒以上：継続
	Bチームのキックボール				
ボールのコントロールが変わる	Bチームのスティール（ケース１，３）	Aチームのスローイン （相手チームのフロントコートのスローインラインからスローイン）	Aチームの MPフリースロー１本 ＋Aチームのスローイン （相手チームのフロントコートのスローインラインからのスローイン）	１４秒	
	Bチームのディフェンスリバウンド（ケース１）				
	Aチームが得点した場合（ケース５）				
	Aチームの バイオレーション				
	Aチームのファウル（ケース３，６）				
その他	ジャンプボールシチュエーション（ケース４）※１				
	ショット動作中のファウル（ケース２）	Aチームのフリースロー（リバウンダーなし） +Aチームのスローイン	Aチームのフリースロー（リバウンダーなし） +Aチームの MPフリースロー１本 +Aチームのスローイン		
	Aチームのショット～リバウンド時Aチームのファウル（チームAのファウル５回目以上の場合）	Bチームのフリースロー（リバウンダーなし） +Aチームのスローイン	Bチームのフリースロー（リバウンダーなし） +Aチームの MPフリースロー１本 +Aチームのスローイン		
	アンスポーツマンライクファウル（UF） ディスクォリファイファウル（DQ）	DQ/UFのファウルの処置を優先し、ルールに沿ったスローインで再開※２	Aチームの MPフリースロー１本 +DQ/UFのファウルの処置を優先し、ルールに沿ったスローインで再開		

修正内容　2-④重大なファウルが起こった時の処置の順序について

【内容】
（14-1-2）

14-1-2	マンツーマンペナルティの罰則が適用される前に、別のテクニカルファウルが宣せられた場合は、テクニカルファウルの処置を行った後、マンツーマンペナルティの罰則を適用する。	14-1-2	マンツーマンペナルティの罰則が適用される前に、別のテクニカルファウル、アンスポーツマンライクファウル、ディスクォリファイングファウルが宣せられた場合は、~~テクニカルファウルの処置を行った後、マンツーマンペナルティの罰則を適用する。~~マンツーマンペナルティの罰則の処置を行い、テクニカルファウル、アンスポーツマンライクファウル、ディスクォリファイングファウルの処置を行ってゲームを再開する。
	修正前		修正後

【内容】
（ケース11）

【ケース 11】

・ マンツーマンペナルティの処置において、与えるべきフリースローを与えなかった時の対応について

→ 競技規則第 44 条に従い，処置を行う。

→ 44-2　手順（誤りの訂正の手続き）、44-2-1 や 44-3-2 を参考に処置をする。

修正前

【ケース 11】

・マンツーマンペナルティの処置において、与えてはいけないフリースローを与えた時、与えるべきフリースローを与えなかった時について

→ 競技規則第 44 条（44-3、44-4）に従い、処置を行う。

※特に 44-3-1 には注意をしてください。

1） 4Q の残り 2 分になるまでは、今回(2025 年 4 月)のルール改正で、誤りに気がついた時点での訂正が可能になった。

2） 4Q の残り 2 分以下では、2024 年までのルールと同様に、誤りに気が付いたあと、次にボ ールがライブとなるまでに訂正できなければ、その後の訂正はできない。

修正後